



ハマシギ

【チドリ目シギ科】

9月から5月にかけて旅鳥または冬鳥として見られるシギです。夏羽は腹面に黒斑があり背面は赤褐色。冬羽は灰褐色でミコビシギによく似ますが、本種はわずかにくちばしが長く下にカーブします。群れで現れますが、近年その数を減らしています。



ミコビシギ

【チドリ目シギ科】

8月から5月にかけて旅鳥または冬鳥として見られるシギです。後指が退化し、3本に見える事が名前の由来です。夏羽は頭部から背面が黒斑の混ざった褐色ですが、冬羽は灰白色です。またくちばしは黒くてやや短いことが特徴です。



トウネン

【チドリ目シギ科】

4月から5月の春と7月から10月にかけて旅鳥として見られるシギです。他のシギに比べ小型で、くちばしや脚が短いのが特徴です。潮が引いたあとの護岸や干潟でヨコエビなどの底生生物を採食している様子が見られます。



キョウジョシギ

【チドリ目シギ科】

4月から5月の春と8月から9月の秋にかけて旅鳥として見られるシギです。京の女性のような艶やかな白・黒・栗色の模様が名前の由来です。くちばしは短く、先端が尖っています。護岸で海藻や小石をひっくり返し餌を探す姿が見られます。



キアシシギ

【チドリ目シギ科】

4月から5月の春と8月から9月の秋にかけて旅鳥として見られるシギです。名前の通り黄色い足を持っています。夏羽は上面が灰色で首から腹面にかけて線状の灰色の模様があります。極稀に近似種のメリケンキアシシギもみられます。



イソシギ

【チドリ目シギ科】

留鳥として年間を通して見られるシギです。体上面は暗褐色で、腹面は白色。腹面の白色は側胸に食い込みます。眼にはっきりとした白いアイリングがあります。初夏頃、主に中流河川の河原で繁殖します。腰を上下に振って歩くのが特徴です。



メダイチドリ

【チドリ目チドリ科】

4月から5月の春と8月から9月の秋にかけて旅鳥として見られるチドリです。夏羽は胸と頭頂部が橙褐色で、前頭と過眼線が黒くなります。潮が引くと干潟に現れジグザグとあるきながらゴカイなどを探す様子を見ることができます。



シロチドリ

【チドリ目チドリ科】

留鳥として年間を通して見られるチドリです。特に夏に多くみられます。上面が灰褐色で下面が白色。夏羽になると雄は額と眉が白く、前頭と過眼線は黒くなり、頭頂も橙褐色になります。潮が引くと干潟でゴカイなどを探して歩く様子が見られます。



ウミネコ

【チドリ目カモメ科】

留鳥または夏鳥として見られる全長約45cmの中型のカモメです。特に8月から9月に多くみられます。くちばしは全体が黄色く、先端部に黒と赤が入るのが特徴です。名前は鳴き声が「ミャー」「アー」などネコに似ていることから付きました。



ハクセキレイ

【スズメ目セキレイ科】

スズメより少し大きく、頭から背は黒～灰色で目の横に黒いラインが入りますが、入らない亜種も確認されています。河川や市街地など様々な場所で見られ、昆虫や水棲生物などを食べます。長い尾を上下に振る愛らしい様子も見られます。



カワウ

【カツオドリ目ウ科】

全長約80cmの大型の水鳥で留鳥。体は全体的に黒く、エメラルドグリーン目が特徴。数千羽の群れで飛来し、得意の潜水で主に魚を捕って食べます。潜水後、翼を広げて干している姿もよく見られます。鵜飼がよく使われるウミウとは別種です。



ミサゴ

【タカ目ミサゴ科】

全長約60cmの年間を通して見られるタカの仲間です。海岸や河川周辺で魚などを捕えて生活しています。普段は海の杭などにとまって、獲物を探したり、食べたりしています。運が良いと狩りの様子が見られるかもしれません。

浦安三番瀬
から見える



野鳥鑑子

春・秋
編

浦安市 三番瀬 環境観察館

浦安市 三番瀬環境観察館

〒279-0013
千葉県浦安市日の出7丁目9番1号
TEL・FAX 047-711-1601
☑ sanbanze@city.urayasu.lg.jp



HP: <https://sanbanze.ces-net.jp/>

施設案内

開館時間 9:00-17:00

- 休館日
- ・月曜日（休日の場合は翌平日）
 - ・休日の翌日（日曜日及び土曜日の場合は翌平日）
 - ・12月29日から翌年の1月3日までの間

アクセス



三番瀬は長い旅路の中継地点

渡り鳥の中には、夏は涼しいシベリアなどのユーラシア大陸の北部で繁殖し、冬は温暖なオーストラリアなどで越冬するために長い旅をする渡り鳥「旅鳥」がいます。

三番瀬はその繁殖地と越冬地の間に位置します。また見通がよく、ゴカイなどの餌が豊富なことから、これら旅鳥にとって重要な中継地点となっています。年に2回、春と秋にこれらの旅鳥を観察することができます。



観察のコツ① シギチのすすめ

旅鳥の代表がシギやチドリの間です。護岸や干潟の上をせわしなく動きまわり、餌を探す様子は可愛らしく見えて飽きません。なれるまでは種類を見分けるのは難しいですが、焦らず一種類ずつ覚えて行きましょう。



↑干潟でゴカイを引っ張り出すメダイチドリ

観察のコツ② 潮汐を確認しよう

シギチを観察したいときは、護岸や干潟が出る干潮の時に狙いましょう。事前に潮汐を確認し、十分に潮が引いた時に観察できるようにします。

潮汐の確認は海上保安庁や気象庁のHPでできますが、浦安に観測所がないため、市川や船橋を参考にしましょう。潮位の目安としては護岸の下段まで引くのが100cm以下、砂地が見えるには50cm以下までです。また引き具合はその日の気圧などによっても変動します。



↑潮位が20cm以下になると施設の正面でも砂地がでる。